

# 令和 7 年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

### (1) 教育目標

- ・他人を思いやる心と豊かな人間性を育み、責任を重んじる自主・自律的な人格を育成する。
- ・自己の使命を自覚し、倫理を尊び、規律を守る社会性豊かな人間を育成する。
- ・高い志をもって真理を探究し、技術を磨き、社会の進歩発展に寄与する工業技術者を育成する。

### (2) 教育方針

- ・主体的に学び、自ら問題を発見し、課題を解決する実践力と創造性を育成する。
- ・基礎学力と情報活用能力を充実させ、専門技術・技能の練磨を図る。
- ・勤労意欲と責任感、協調性を育成する。
- ・健康な心身と節度ある態度を育成する。

## 2 学校の特色

新川地区唯一の工業高校である。生徒は純朴で「ものづくり」に興味・関心をもつ者が多く、専門分野の知識・技能の習得や資格取得に積極的に取り組んでいる。また、課題研究、各種ロボット等の製作をはじめとする「ものづくり」を通して、創造性や課題解決能力の育成に努めている。

部活動も活発で、競技力の向上に加え、自主・自律的な人格形成を目指している。

## 3 学校の現状と課題

### (1) 現状と問題点

- ・明るく純朴な生徒が多く在籍している一方で、判断力や自己抑制力、規範意識、コミュニケーション能力に課題を抱える生徒も見受けられる。
- ・基礎学力、学習意欲の低下、目的意識の希薄さから、学校生活に意義を見いだせない生徒も少なくないため、個人面接や部活動、教科指導等、あらゆる教育活動を通して心の交流を図るとともに、家庭との連携を深め、生徒の健全な育成に努める必要がある。

### (2) 課題

- ・生徒一人一人について、能力や適性の伸長を図ることを目標として、積極的に実践することのできる生き生きとした生徒の育成を図るために、次の課題を設定した。

－ 活力ある生徒の育成を目指して －

#### 4 学校教育計画

項 目	目標・方針及び計画	
1 学習活動  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">重点1</div>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や生徒の実態を踏まえ、系統的な基礎的・基本的学習内容や体験学習等を重視しながら、生徒が主体的・対話的に取り組むことができるよう授業形態や展開を工夫する。</li> <li>・「教科横断しながら育成を目指す資質・能力」の共有を図り、自ら志を立てて行動し、協働しながらものづくりで社会を豊かにすることができる生徒の育成を目指す。</li> <li>・ICTの積極的な活用と効率的な教材作成に努め、学習内容の充実を図る。</li> <li>・進路についての明確な目的意識をもたせ、意欲的・計画的に学習に取り組ませるよう努める。</li> <li>・検定合格・資格取得に向け、生徒が意欲的に学習できるよう支援を行う。</li> </ul>
2 学校生活  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">重点2</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">重点5</div>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>基本的生活習慣を確立させる。</u></li> <li>・<u>社会の一員として必要なルール・マナーの向上と規範意識の高揚に努める。</u></li> <li>・豊かな人間関係を築くことのできる生徒の育成に努める。</li> <li>・教師間の共通理解を深め、全職員による指導体制を確立する。</li> <li>・生徒一人一人が健康と安全及び環境衛生に対する理解を深め、主体的に健康管理ができる能力を身に付けさせる。</li> <li>・生徒一人一人が充実した高校生活を送ることができるよう援助する。</li> <li>・生徒が学校生活で直面する種々の問題や悩みを自ら解決し、自らの生き方を選択・行動できるよう援助する。</li> </ul>
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席・遅刻の多い生徒への個別指導を充実させるとともに、家庭との連絡を密にする。</li> <li>・定期的に、頭髮・服装指導を実施し、諸規則遵守の気風育成と規範意識の高揚を図る。</li> <li>・式典、集会への参加態度を正す指導を徹底する。</li> <li>・登校指導やさわやか運動、学校生活全般を通して、積極的に声かけを行い、人間関係の基本となる挨拶や正しい言葉遣いを身に付けさせる。</li> <li>・校内巡視を実施し、問題行動の未然防止に努める。また、問題行動を起こした生徒に対しては、生徒指導部、学年、学科等を中心に組織的・継続的な指導を行う。</li> <li>・「健康を考える日」や学校保健委員会等を通して、健康・安全に対する関心や理解を深め、個々の生活リズムや食生活の見直しを図る機会とする。</li> <li>・生徒保健委員会が中心となり、環境衛生（手洗いやアルコール消毒含む）の啓発活動を行う。</li> <li>・入学時のオリエンテーションや学級活動・清掃指導等を通してゴミの分別とマナーの向上を図る。</li> <li>・生徒を支援するにあたり、担任、保護者、養護教諭や専門機関との連携を大切にし、関係者が協力しながら取り組む。</li> <li>・校内研修会や学年会などを通じて教職員の共通理解を深め、資質の向上を図る。</li> <li>・年に2回(1週間程度の期間)の相談週間を設け、担任による個別面接指導を行う。</li> </ul>

3	進路支援  重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>様々な機会の中で、生徒自らが能力を発見・伸長し、進路への意識の高揚を図る。</u></li> <li>・ 社会での使命を自覚させ、自分の能力・適性にあった進路選択ができるよう指導する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場見学、進路講話、先輩との座談会等の実施を推進する。</li> <li>・ インターンシップを推進し、職業観・勤労観を育成し、同時に社会人としてのマナー等についても学ぶ。</li> <li>・ 応募前に、希望する企業への職場見学を推奨する。</li> <li>・ 進学希望者に対しては、希望校への体験入学等の参加を推奨する。</li> </ul>
4	特別活動  重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事・部活動・生徒会活動・ボランティア活動などへの積極的な参加を促し、責任感・集団の一員としての社会性・道徳性・忍耐力等の育成に努める。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>部活動の加入率・積極参加率の向上に努める。</u></li> <li>・ 週休日を含む週2日以上 の休養日を設定し、部活動が密度の高いものになるよう創意工夫する。</li> <li>・ 学校行事（体育大会や競技大会など）に生徒が積極的に参加するように努める。</li> <li>・ 募金や地域の活動への参加等ボランティア活動に積極的に参加する。</li> <li>・ 校舎内外の美化活動や全校生徒のマナー意識の向上に積極的に取り組む。</li> <li>・ ホームルームの時間の活性化を図る。</li> <li>・ 図書館の活用法を生徒に指導するため、ホームルームの年間計画に図書館の利用についての時間を設ける。</li> </ul>
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標の具現化及び教育方針の達成のため、構造的・機能的に校務分掌を組織し、適材適所に基づいた校務分掌により、的確、敏速な校務の遂行を図る。</li> <li>・ 奨学金貸与、安全振興会の周知等、生徒が安心して学校生活を送れるよう努める。</li> <li>・ 保護者との連携を深め、より活発なPTA活動を目指す。</li> <li>・ 文書の有効利用及び情報提供への対応に向け、適切な情報管理を行うとともに、法令等に基づき個人情報の保護に努める。</li> <li>・ 教育目標の実現に向け、各科と連携を図りながら効果的な予算執行により、教育環境の整備を推進する。</li> <li>・ 本校の情報や取組を地域や中学校に向けて積極的に発信し、本校の教育活動について理解を図るとともに、地域や中学生から選ばれる学校を目指す。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分掌、学年、教科、各委員会等を通して業務内容の共通理解を図り、業務分担を明確にし、適正、円滑な校務運営に努める。</li> <li>・ 奨学金貸与、安全振興会等について、生徒、保護者に周知徹底する。</li> <li>・ 保護者の研修、広報活動をより活発に行うとともに、「さわやか運動」「祭礼、年末時の巡視」など生活指導において保護者との連携に努める。</li> <li>・ 情報提供が適切に行われるために、管理文書の分類、記録、保存、廃棄方法などを明確にし、対応窓口を一本化するなど文書管理体制の整備を行う。</li> <li>・ 個人情報の収集、利用、保管について、適正な取扱いのためのルールを定め、その運用管理体制を整備する。また、情報モラルや情報セキュリティに対する意識向上のための校内研修を行う。</li> <li>・ 年度当初の各科及び各係からの予算要望を基に教育計画に従い、計画的かつ有効に予算を執行する。</li> <li>・ 全教職員と連携しながら安全に留意し、適切な施設設備の維持管理に努める。</li> <li>・ 学校情報発信業務を分掌業務に位置づけ、一元的かつ戦略的な情報発信を行う。</li> </ul>

## 5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した互見授業・教科別校内研修会の実施と育成すべき資質・能力の伸長を図る授業の工夫	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をはじめとした学習活動に対し目的意識や基礎的な学力がやや不足しているが、UDGs（魚津工業高校が提案する、より良い人生のための目標）の取組に興味を示し、自己の成長を望む生徒が多くみられる。</li> <li>・学校生活では、挨拶や清掃活動等をきちんと行うことができるが、授業や実習では、指示を待つ傾向が強く、自分で考えたり、自ら解決したりしようとする態度が不足している。将来、自己課題を解決し、やりたいことが実現できる資質・能力を育成する必要がある。</li> </ul>	
達成目標	①定期的に実施している基礎力診断テストの結果で生徒の学習定着度を測る。前回成績よりG T Zスコアを維持、または、向上した生徒の割合	②ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別校内研修会に参加した教員の割合
	80%以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UDGsを活用した授業の実践を行い、各教科の知識・技能だけでなく、「自ら考え、判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を採り入れ、育成すべき資質・能力の伸長を図る。</li> <li>・「課題に取り組む力」を身につけることが重要であることを生徒に伝え、全教職員で根気強く生徒の指導にあたる。将来の進路を決めるため、将来働くためには、「学ぶこと」と「課題に取り組む力」が必要になることを伝え続ける。</li> <li>・タブレット端末の効果的な活用方法や可能性を探り、その利用を推進する。</li> <li>・互見授業の開催・参加がしやすい環境を作り、多くの教員が研修会に参加するよう各教科へ働きかけを行う。</li> </ul>	

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )

令和7年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活
重点課題	基本的生活習慣の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、8割以上の生徒が8:30までには登校しているが、規範意識の低さから、安易に遅刻をしてしまう生徒がいる。</li> <li>・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的生活習慣を確立する必要があり、生徒指導部では毎朝登校指導を行っている。</li> <li>・過去の遅刻回数はR4年度194回、R5年度238回、R6年度499回であり、ここ数年は、体調不良での遅刻が最も多く、起立性障害のある生徒もいる。</li> <li>・昨年度の統計結果をみると、体調不良等による遅刻が339回(67.9%)、寝坊など自己管理の甘さによるものは、160回(32.1%)であった。また、年間の無遅刻生徒の割合(通院、体調不良等を除いたもの)は、76.4%(207名)であり、寝坊等による遅刻生徒の割合23.6%(64名)であった。64名のうち、遅刻2回以上の生徒が17名、うち5回以上5名があった。</li> </ul>
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合 (通院等、体調不良を除く) 80%以上(188名以上) ※昨年度76.4%(207名)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻しないための事前指導を充実させる。学校全体であらゆる機会、場面で基本的生活習慣の確立および時間厳守の大切さについて指導する。</li> <li>・遅刻した生徒には、その都度、適切な声掛けをするとともに必要に応じて面談をし、遅刻の原因を考えさせ、自らの力で改善できるような指導を心がける。</li> <li>・遅刻を重ねる生徒には、学年・学科とも協力して個別指導を行う。</li> <li>・学年と協力し、朝学習への積極的な取り組みを促す。</li> <li>・食事、睡眠を正しくとるなど、自己管理、体調管理の徹底を呼び掛ける。</li> </ul>

( 評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった )

令和7年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援
重点課題	進路意識の高揚
現 状	自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。</li> <li>・進学者の中に、明確な目的が感じられない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。</li> <li>・3学年85名の内、62名が就職を希望している。</li> </ul>
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒(学年末にアンケート調査を行う)の割合 92%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。</li> <li>・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。</li> <li>・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。</li> <li>・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。</li> </ul>

( 評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった )

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動加入者への積極的呼びかけと部活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への加入率は、4月の時点で1年76%、2年83%、3年85%であった。</li> <li>・1年生は昨年度から全員加入制を廃止したため、加入率が減少すると考えられる。</li> <li>・2、3年生は新規に加入する生徒は少ないと思われるため、加入率について現状を維持するとともに、積極的に活動に参加する生徒の割合を向上させる必要がある。</li> <li>・良い結果を求め、継続して部活動に参加し、積極的に練習に取り組んでいる生徒が多いが、その反面、部活動を欠席しがちな生徒もいる。部活動の更なる活性化のため、継続率の維持・向上を図ることは勿論、活動内容の改善を行うことも必要である。</li> </ul>	
達成目標	①部活動加入率	②部活動積極的参加率
	4月時点 83%以上 9月時点 82%以上 1月時点 81%以上 ※全員加入制廃止の影響を考慮し、学期毎に目標値を設定する。	1年生 90%以上 2年生 85%以上 3年生 85%以上 ※部活動への参加状況をA～Cの3段階で評価し、A（ほぼ参加）およびB（7割程度以上参加）となる生徒の割合
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生には、部活動の意義を説明する機会を増やす。また、クラス担任からだけでなく、特活部員・学年主任・学科主任などからも、積極的に参加するよう呼びかける。</li> <li>・2、3年生には、新しく後輩が入部してくるので新たな気持ちを持ち、先輩らしい行動・言動などにより、1年生の手本となるよう指導する。</li> <li>・各学期中に活動状況を調査し、担任が各生徒の活動状況を把握し易くするとともに、保護者会等で保護者と情報交換することで、生徒への啓発を促す。</li> <li>・夏季休業時の活動の重要性を周知するとともに、各顧問が参加状況を的確に把握することで、生徒の活動状況の管理に繋げ、生徒の活動意欲の低下を未然に防ぐ。</li> <li>・部活動を辞めたい生徒に対しては、進路指導やキャリア教育と絡めて部活動の重要性などをクラス担任や関係職員から説明するとともに、生徒の人間関係等にも留意し、必要に応じて保健部相談係の協力を仰ぐ。それでも継続が難しい場合は、他の部活動への転部も視野に入れた対応を進める。ただし、強制はしない。</li> </ul>	

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )

令和7年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	学校生活
重点課題	規則正しい生活習慣の定着
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。</li> <li>・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満等、心身の健康と関連し、学校生活に悪影響を及ぼしている。</li> </ul>
達成目標	<p>睡眠時間6時間以下の生徒の割合</p> <p style="text-align: center;">20%以下を維持する。</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣調査を年2回（6月、10月）実施し、各自の生活を振り返らせる。</li> <li>・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。</li> <li>・担任や部顧問、教科担当との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。</li> <li>・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。</li> </ul>

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）